九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

韓国におけるマウルマンドゥルギの動向と特徴に関する研究

金，昭淵
九州大学大学院人間環境学府都市共生デザイン専攻 ： 博士課程

坂井，猛
九州大学新キャンパス計画推進室

https://doi.org/10.15017/1485043

出版情報：都市・建築学研究. 25, pp.9-15, 2014-01-15. 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門
バージョン：
権利関係：

都市・建築学研究　九州大学大学院人間環境学研究院紀要　第25号，2014年1月
J. of Architecture and Urban Design, Kyushu University, No.25, pp. 9～15, Jan. 2014

韓国におけるマウルマンドゥルギの動向と特徴に関する研究

The Tendency and Features of Maeul-mandeulgi by Community Participation in Korea

金　昭淵*，坂井　猛**
Soyeon KIM and Takeru SAKAI

This study compares methods of Japanese Machizukuri and Korean Maeul-mandeulgi and clarifies realities and traits of Maeul-mandeulgi by Seoul's case study. The reasults are ;1) Japanese Machizukuri has changed into management form to maintain, and enhance the value of regions, while Korea's Maeul-mandeulgi exhibits active movements with government and municipalities making various institutions. 2) Time line shows execution of 1990s and administrative policies of late 2000s greatly influenced Maeul-mandeulgi, and northwestern Seoul is actively implementing movements, which are mainly 'community activities' and 'local activities.' 3) By using cluster analysis, cases of Seoul were classified into four groups, traits of which were elucidated.

Keywords : *Machizukuri, Maeul-mandeulgi, Area management, Seoul*
まちづくり，マウルマンドゥルギ，エリアマネジメント，ソウル

1. はじめに

1-1　研究の背景

韓国の都市計画は，1913年の市街地建築物取締規則，1934年の朝鮮市街地計画令制定以来，日本の都市計画の影響を受けており，日本都市計画における法令の多くは，韓国のそれに先行してきた[1)]．そのため，日本と韓国の都市計画は類似する部分が多い．また，両国とも現在少子高齢化と人口減少による都市の持続性の問題をかかえている．

日本では1960年代から地域住民の参加するまちづくりが始まり，韓国では1990年代になって日本のまちづくりと類似したマウルマンドゥルギの取り組みがみられるようになった．特に，ソウル市では2012年に発表したソウル市政運営計画において，マウルマンドゥルギの活性化のための様々な取り組みを行っている．

1-2　研究の目的

本研究は，韓国の住民参加型マウルマンドゥルギを対象として，日本と韓国における住民参加型地域管理手法を比較し，ソウル市の事例からマウルマンドゥルギの実態を把握し，その特徴を明らかにすることを目的とする．

1-3　研究の方法

まず，日本と韓国におけるまちづくり，マウルマンドゥルギに関する文献及び既往の研究を整理し，両国における住民参加型の地域管理の動向を把握する．次に韓国における住民参加型の地域管理の事例を選定し，活動開始時期に着目し，年度別，行政区域別に分類を行い，韓国における地域管理の実態と課題に関する考察を行う．さらに，クラスター分析を用いて分類を行い，ソウル市の住民参加型マウルマンドゥルギの特徴を明らかにする．

1-4　既往の研究

韓国のマウルマンドゥルギに関する研究は，マウルマンドゥルギの手法に関する研究[2)-12)]，住民参加の誘導に関する研究[13)-19)]，推進主体に関する研究[20)-21)]，マウルマンドゥルギ条例に関する研究[22)]がある．また，海外の事例と韓国のマウルマンドゥルギの運営方法の比較を行った研究[23)-24)]，初期のマウルマンドゥルギの概念を整理した研究[25)]がある．しかし，日本と韓国のまちづくりの動向を比較し，韓国の事例分析を通してマウルマンドゥルギを論じた研究はみられない．

＊都市共生デザイン専攻　博士課程
＊＊新キャンパス計画推進室　教授・博士（工学）

2. 両国の住民参加型地域管理手法

2-1 日本における地域管理手法

(1) まちづくり[注1]の区分

佐藤滋は「まちづくり」を3世代に分け，第1世代(1970～80年代後半)を理念とそれに基づく実験を伴うまちづくりの勃興期，第2世代(1980年代後～2000年代前半)を地域の中から実践的な方法が組み立てられ，法制度にも支えられた方法的な蓄積がされた時代，第3世代(2000年代後半)を，地域社会の運営に多様な主体が協働する時代とした[26]．

(2) まちづくり第2世代：TMO(Town Management Organization)

1990年代に入り，日本全国で発生した中心市街地の衰退や空洞化問題に対処するため，1998年「中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律（中心市街地の活性化に関する法律)」を制定した．TMOは，この法律による中心市街地活性化のために導入された中心市街地における商業まちづくりをマネージメントする機関であり，経済活動に直接リンクしている．

(3) まちづくり第3世代：エリアマネジメント

エリアマネジメントは，TMOと同様に，地域の活性化という目標を持つが，商業のみならず，住民・事業主・地権者など地域に関わる多様な地域主体により，地域の環境改善だけではなく，地域を維持・向上させるためのマネジメント活動を行っている点でTMOと異なる[28),30)]．エリアマネジメント団体が設立されるようになったのは2000年代後半であり，小林重敬らは2002年大都市都心部におけるエリアマネジメントの実態を明らかにした[28)]．エリアマネジメントは，参加する主体がより多様になり，行政は主体の一つとして関わるようになった（図1)．

まちづくりの第3世代にあたる2000年代後半以降は，まちづくりを基に地域特性に合わせ発展した様々な取り組みが現れている．

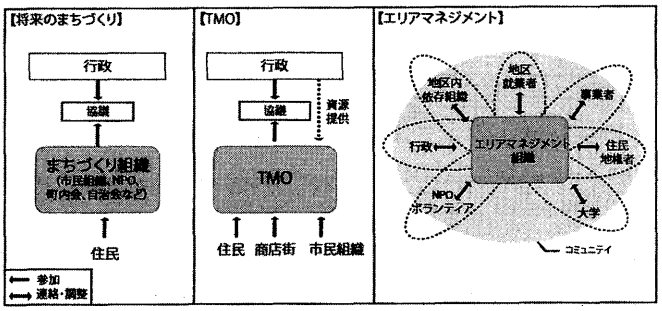

図1 日本の各住民参加型まちづくりの主体との関係図
（参考文献26,29に基づき再作成）

2-2 韓国における住民参加型マウルマンドゥルギ

(1) 市民によるマウルマンドゥルギ運動

韓国では1990年代に入り，地方自治体の実施と経済成長による生活の質への関心が高まり，住民と市民団体を中心に様々な住民が参加する活動が進められてきた．1999年，ソウル市の都心部に位置する北村の伝統家屋韓屋の保全と住居環境の改善のための活動がきっかけとなり，全国的にマウルマンドゥルギが広く展開するようになった．日本のまちづくりと類似した概念であるマウルマンドゥルギは，日本のまちづくりの訳語として使われてきたが，最初に韓国のマウルマンドゥルギを論じたのは1999年の「マウル単位都市計画実現基本方向－住民参加型マウルマンドゥルギ事例研究(Jeong Seok外2人)」である．Jeong Seokらは，まちを意味する単語「マウル」には物理的な範囲の意味以外にも共同体の意味が含まれ，つくるを意味する「マンドゥルギ」には物理的な環境整備と文化づくりなどのソフトの意味が含まれることを述べている[25)]．

(2) 行政の政策によるマウルマンドゥルギ

2005年，韓国政府は第4次国土総合計画を修正し，「住み良い都市づくり」を政策の目標として設定した．これにより，国土海洋部は2007年「住みたい都市づくり師範事業(20箇所)」を始め，2008年と2009年にわたって2,3次師範事業（各々20箇所，16箇所）を実施した．

また，ソウル市では2002年から施行してきた前面撤去方式再開発のニュータウン事業を，住民の同意がある地域に限り，小規模保全型都心再生手法による「マウル共同体事業」へ転換し，2012年にはマウル共同体基本計画を立てた．ソウル市は「マウル共同体」につ

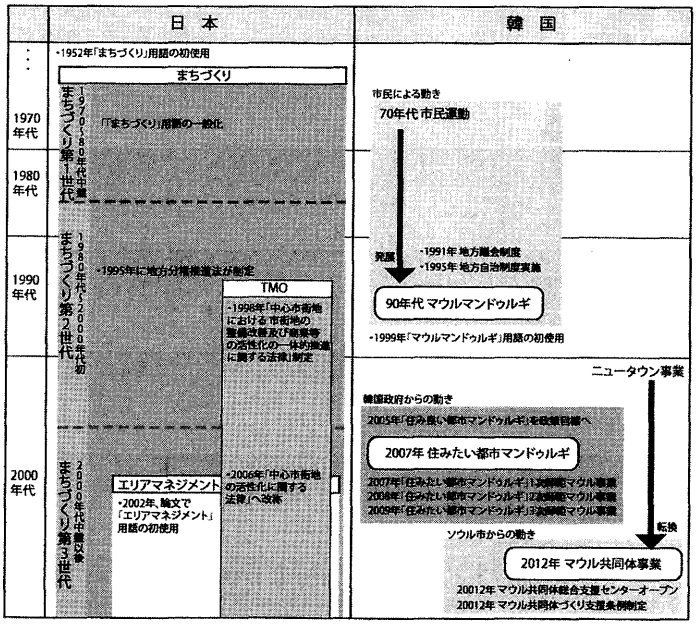

図2 日本と韓国の住民参加型まちづくり年表

いて，「マウルを基盤に住民が主体となり共同体を形成し，マウルに関することを決定する基盤である」と説明し，同年「マウル共同体総合支援センター」を恩平区に設置し，「マウル共同体づくり支援条例」を制定するなど，積極的な支援を進めている．

3. ソウル市における住民参加型マウルマンドゥルギの変遷

3-1 対象データ

韓国国会図書館のホームページを利用し，「マウルマンドゥルギ」と「住みたい都市づくり」をキーワードに文献348件を収集した．韓国のマウルマンドゥルギを初めて取り上げた「マウル単位都市計画実現基本方向－住民参加型マウルマンドゥルギ事例研究（1999)」以降，文献の数が徐々に増加し，政府の住みたい都市づくり師範事業が始まった2007年の翌年からは急激に多くなったことが分かる．北村の伝統保存運動を始め，数多くの活動が行われたソウル市に注目し，ソウル市における142件の事例を抽出した（図4)．

3-2 住民参加型マウルマンドゥルギの年代別分類

抽出した142件の事例はすべてが行政区の活動に留まっていることから，ソウル市におけるマウルマンドゥルギの活動開始時期を行政区別に分類したところ，漢江北部に多く分布しており，特に北西部の麻浦区の事例が多い（図5)．

年代別推移をみると，地方自治制度が実施された1990年代後半から文献数が増え，ソウル市が「マウル共同体事業」をはじめた2010年以降に再び急に増加したことが分かる（図6)．また，マウルマンドゥルギ事例の開始時期を5年ごとに分類し，行政区別にその推移を見ると，1975年から1999年まではマウルマンドゥルギの件数が少ないが，漢江北部での件数が増加している．さらに，1995年に入ると，マウルマンドゥルギがソウル市全域で行われたことが分かる．また，2000年から2009年にかけて活動を開始した件数は少ないが，この時期は漢江北部の活動開始が盛んであった．2010年以降ソウル市のマウル共同体事業の影響から急激に多くの活動が始まるが，漢江の北側の動きが目立

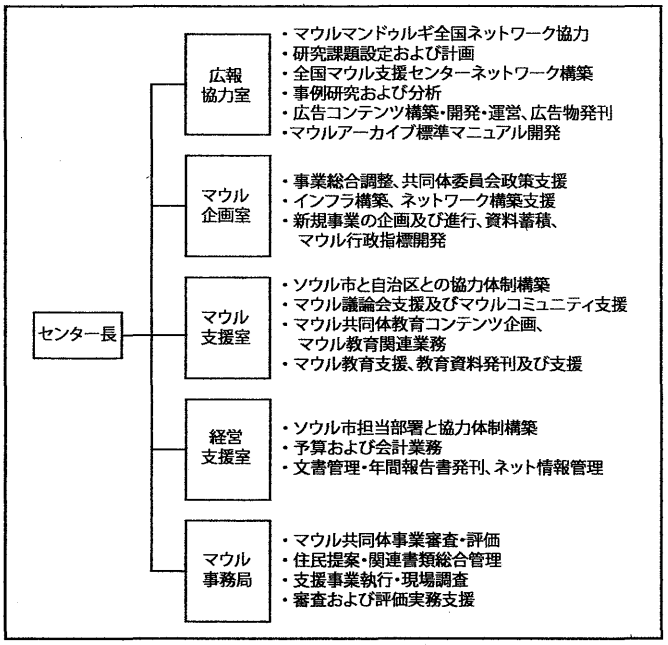

図3 マウル共同体総合支援センターの構成図
（参考文献31を参考に再作成）

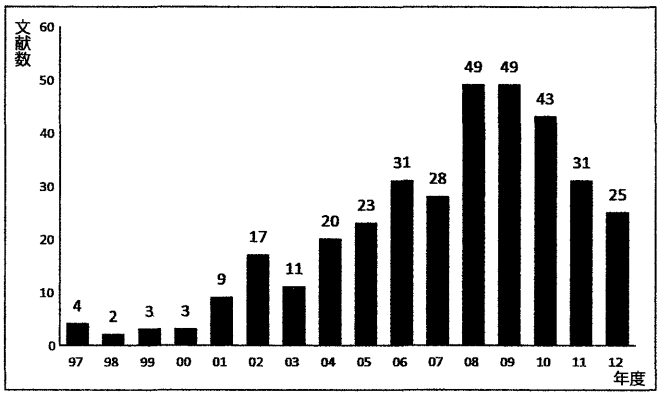

図4 マウルマンドゥルギに関する文献数の推移

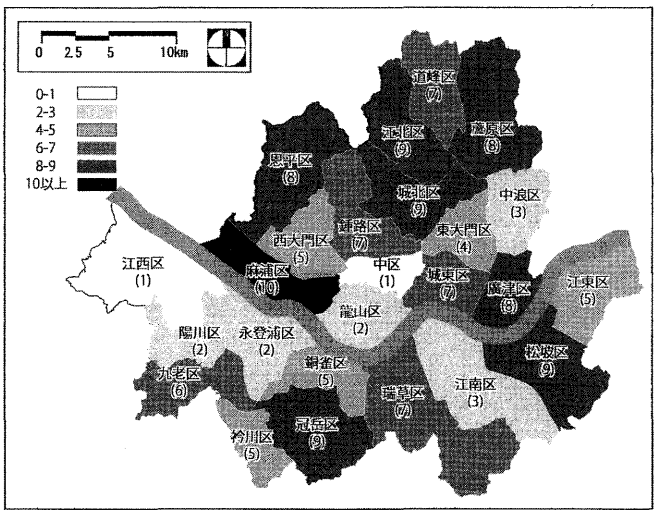

図5 マウルマンドゥルギ活動の分布

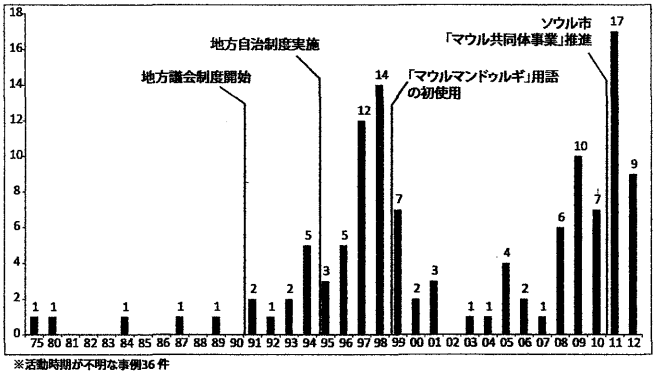

図6 ソウル市における年度毎のマウルマンドルギ活動開始数

つ（図7）．漢江南側は，ソウル市が1970年代に開発された地域であり，北側に比べ市街地の環境が良かったこと，地域住民間のコミュニティが北側に比べると弱いことなどが理由としてあげられる．

3-3 住民参加型マウルマンドゥルギの年代別活動内容

各地域管理事例の活動内容を「地域の将来像・プランの策定」,「街並みの規制・誘導」,「公共物，公共スペース等の維持管理運営」,「地域の防犯性の維持・向上」,「地域の快適性の維持・向上」,「地域祭り・イベント活動」,「地域経済の活性化」,「コミュニティ活動」の項目に分け，年代別の分類を行った．

1974-1989年は,「地域祭り・イベント活動」(27.3%), 1990-1994年は「公共物，公共スペース等の維持管理運営」(35.3%) が,1995-1999年は「地域の快適性の維持・向上」(31.7%) が，2000-2004年 (40.0%)，2005-2009年 (35.0%)，2010年以来は「コミュニティ活動」(31.1%) がもっと多い．「地域祭り・イベント活動」と「コミュニティ活動」は，1995-1999年を除く全ての年代で多い（表1）．

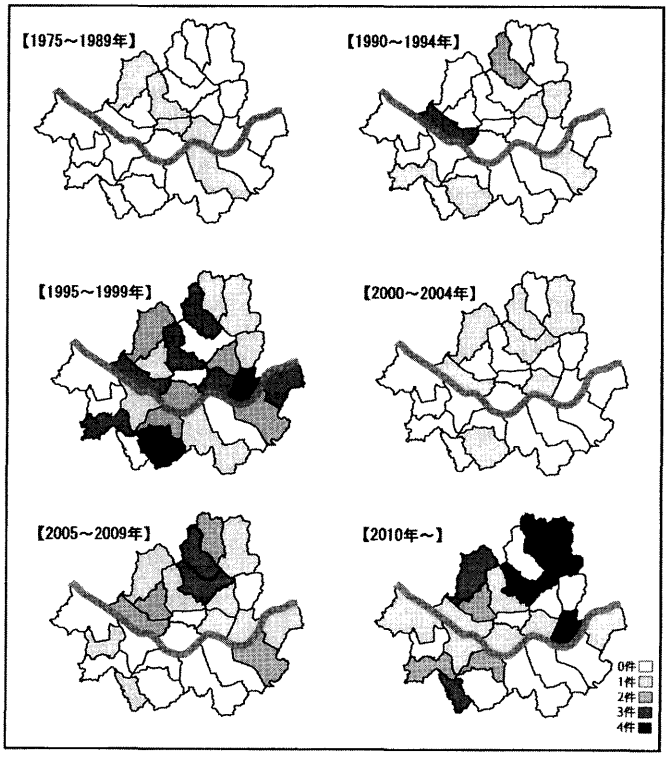

図7　ソウル市におけるマウルマンドゥルギ活動開始の年代別分布

表1　時代別活動

	1974-1989	1990-1994	1995-1999	2000-2004	2005-2009	2010-
地域の将来像・プランの策定	9.1% (1)	5.9% (1)	5.0% (3)	0% (0)	2.5% (1)	6.6% (4)
街並みの規制・誘導	18.2% (2)	11.8% (2)	10% (6)	0% (0)	12.5% (5)	6.6% (4)
公共物、公共スペース等の維持管理運営	18.2% (2)	35.3% (6)	21.7% (13)	10.0% (1)	12.5% (5)	18.0% (11)
地域の防犯性の維持・向上	0% (0)	0% (0)	0% (0)	10.0% (1)	0% (0)	1.6% (1)
地域の快適性の維持・向上	9.1% (1)	11.8% (2)	31.7% (19)	10.0% (1)	12.5% (5)	4.9% (3)
地域祭り・イベント活動	27.3% (3)	17.6% (3)	11.7% (7)	30.0% (3)	20% (14)	23.0% (14)
地域経済の活性化	0% (0)	0% (0)	1.7% (1)	0% (0)	2.5% (1)	3.3% (2)
コミュニティ活動	18.2% (2)	17.6% (3)	15% (9)	40.0% (4)	35.0% (14)	31.1% (19)
その他	0% (0)	0% (0)	3.3% (2)	0% (0)	2.5% (1)	4.9% (3)
合計	100% (11)	100% (17)	100% (60)	100% (10)	100% (40)	100% (61)

4. ソウル市におけるマウルマンドゥルギの類型

4-1　クラスター分析による類型化

ソウル市におけるマウルマンドゥルギ142件を，活動主体，活動内容，活動のきっかけ（目的）を変数に階層クラスター分析（グループ間平均連結法）を行った．

(1) 活動主体：活動主体を各々住民，市民団体，行政，専門家，大学，民間会社に区分し，その組み合わせごとに16タイプに分け，ダミー変数を付し，数値化した（表2）．

(2) 活動内容：「地域の将来像・プランの策定」,「街並みの規制・誘導」,「公共物，公共スペース等の維持管理運営」,「地域の防犯性の維持・向上」,「地域の快適性の維持・向上」,「地域祭り・イベント活動」,「地域経済の活性化」,「コミュニティ活動」,「その他」を行っている場合は1，それ以外は2とした．

(3) 活動のきっかけ（目的）：選択肢としての「環境改善」を1,「コミュニティ」を2,「地域文化保存」を3,「地域活性化」を4,「環境保存」を5として数値化した．

その結果，結合距離9でクラスタライズし，4タイプに類型化した（図8）．

表2　活動した活動主体の組み合わせ

	住民	市民団体	行政	専門家	大学	民間会社	計
1	●						93件(65.5%)
2		●					10件(7.0%)
3			●				1件(0.7%)
4						●	1件(0.7%)
5	●	●					7件(4.9%)
6	●	●	●				3件(2.1%)
7	●	●	●	●			1件(0.7%)
8	●	●	●		●	●	2件(1.4%)
9	●	●			●		2件(1.4%)
10	●		●				12件(8.5%)
11	●		●	●			3件(2.1%)
12	●		●	●	●		1件(0.7%)
13	●		●			●	1件(0.7%)
14	●			●			3件(2.1%)
15		●	●				1件(0.7%)
16			●		●		1件(0.7%)

4-2 ソウル市地域管理組織の4類型

(1) コミュニティ型（104サンプル）

住民または市民団体が単独に活動し，地域コミュニティを中心に活動を行っている．活動を始めたきっかけもコミュニティであり，主に地域住民間交流を目的とした活動を行っている．また，地域内に住民のための教育スペース，文化センター，図書館等を設けて運営し，祭りやフリーマーケットなどのイベント活動も行っている．

(2) 地域価値向上型（14サンプル）

地域の環境改善と地域経済活性化が活動のきっかけとなったグループであり，住民と市民団体が共に活動を行っている．地域内に快適な環境をつくるための活動が多く，地域住民に教育や文化プログラムなどのサービスを提供する公共スペースの運営活動も共に行っている．また，2000年代に入り，地域住民のための祭りや地域内の緑化など，イベント活動を活発に行なっている．

(3) 居住環境改善型（5サンプル）

住民，専門家または大学が共働し，アートや緑を利用し，街並みの雰囲気を変える，または地域の歴史を保存するのためのルールづくりを行うなど，居住環境改善のための活動を行っている．

(4) ハード環境整備主体の活動型（19サンプル）

地域環境の改善または整備のための計画への参加，街並み規制またはルールを定めるための活動を行っている．

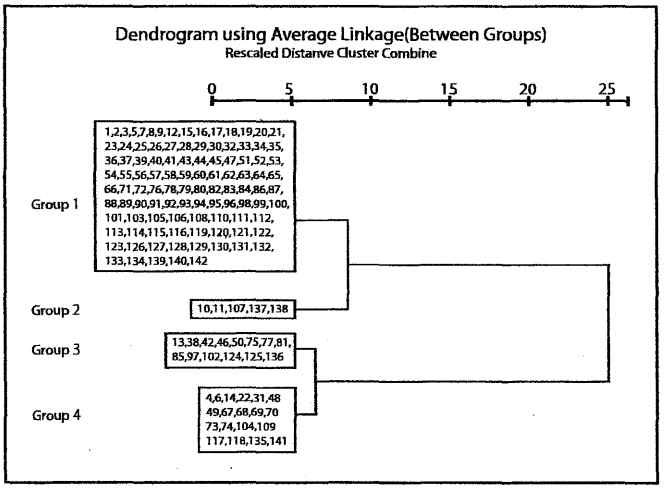

図8　クラスター分析による分類結果

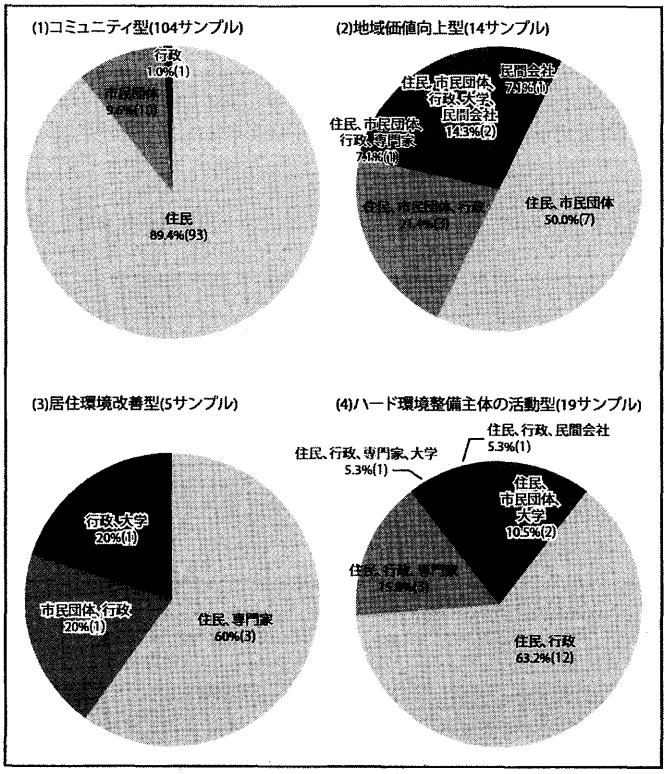

図9　各グループの活動主体の組み合わせ

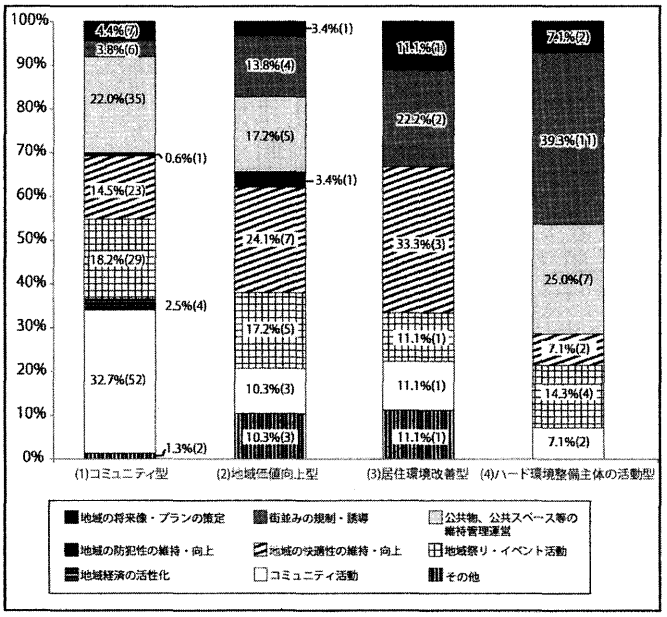

図10　各グループの活動内容

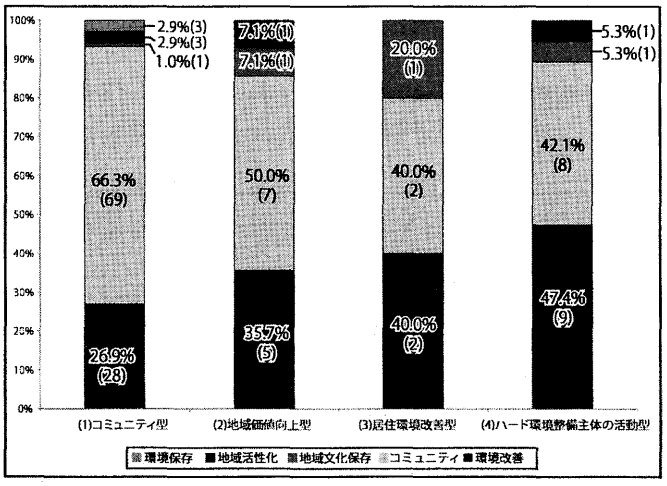

図11　各グループの活動のきっかけ（目的）

5. おわりに

本研究はソウル市の住民参加型マウルマンドゥルギを対象として，文献調査と事例分析により以下の知見を得た．

(1) 韓国のマウルマンドゥルギは，日本のまちづくりより約20年遅れ，1990年代になって，住民参加により行われるようになった．近年，日本のまちづくりは単なる環境改善や地域活性化だけではない，地域を管理運営するマネジメントへと発展してきたが，韓国のマウルマンドゥルギはその初期段階にあたり，地域文化づくりや環境改善の概念として使われている．また，韓国政府により，「住み良い都市づくり」，「マウル共同体」など住民の参加を誘導する様々な仕組みがつくられている．

(2) 事例を活動開始時期に着目し，年代別・行政区域別に分類し，マウルマンドゥルギの変遷とその特徴を明らかにした．韓国の地域管理組織は90年代の地方自治制度と2000年代中盤の国の政策に大きく影響を受け，マウルマンドゥルギ事例の活動開始時期の行政区域別変遷をみると，1970年代に開発が行われた漢江の南側より北側の活動が活発であることから，市街地の環境の良さ，地域内コミュニティーの強さがマウルマンドゥルギ活動に作用したことを示した．さらに，活動内容は，「地域の将来像・プランの策定」，「街並みの規制・誘導」，「公共物，公共スペース等の維持管理運営」，「地域の防犯性の維持・向上」，「地域の快適性の維持・向上」，「地域祭り・イベント活動」，「地域経済の活性化」，「コミュニティ活動」の9つ項目を年代別に分類し，1995年～1999年の時期以外には，全ての時期によって「地域祭り・イベント活動」，「コミュニティ活動」が多く，活動内容が限定的であることを示した．

(3) ソウル市におけるマウルマンドゥルギ142件の事例をクラスター分析により，住民または市民団体が地域住民間の交流を目的とする「コミュニティ型」，地域経済活性化を目的とする「地域価値向上型」，住民と専門家または大学が共働してアート，緑，歴史を利用し居住環境の改善を目的とする「居住環境改善型」，地域環境改善や整備のための計画，ルールを定めることを目的とする「ハード環境整備主体の活動型」の4グループに分け，各グループの特徴を示した．

韓国では，1990年代からマウルマンドゥルギの活動が始まり，約20年が経過したが，住民のマウルマンドゥルギへの参加はまだ十分とはいえず，意識を高めるためにも，学習，啓発などの活動をより充実させる取り組みがさらに必要であり，行政からの経済的，専門的な支援も不可欠である．また，ソウル市の「ニュータウン事業」から「マウル共同体事業」への転換は，これからの韓国の都市計画において大きな意味を持つと考えられ，住民参加型マウルマンドゥルギへの体系的な組織運営と多様な主体の参加が求められる．

注

注 1)「まちづくり」は広範囲に用いられているが，法律で明確に定義されていない．用語としては，1952年に雑誌『都市問題』で用いられたのが最初であり，建築・都市分野では70年代から使われてきた[33]．

参考文献

1) 金南珏，光吉健次，萩島哲，大貝彰：国土レベルの開発計画に関する日韓両国比較分析，日本都市計画学会学術研究論文集，Vol.22，p349-354，1987年

2) Mok Jeonghun:A Studu on The Promotion of Urban Village Making(Maul-mandulgi) for Residential Environment Improvement, Seoul Development Institute, 2006年（韓国語）

3) Jin Younghwan, Ryu Seunghan, Jung Yunhee and Kim Eunran:Livable City Making in partnership with Citizens : Principles and Strategies, Korea Research Institute For Human Settlements, 2008年（韓国語）

4) Shin Joongjin and Shin Hyojin : A Case Study on the Planning Process of Maul-mandulgi through Citizen Participation - Focused on the Project in Doksan3-dong, Seoul -, 大韓建築学会論文集，Vol.24 No.2, pp.109-120，2008年（韓国語）

5) Song Hyeseung, Lee Myeonghun and Lee Meonggyoo:A Study on the Preferences Type in Residents-participatory Maeulmandeulgi(Machizkuri) - Focused on the Gwangju City Bukgu Moonhwadong, 大韓国土・都市計画学会学会集 国土計画，Vol.43 No.3, pp.37-53，2008年（韓国語）

6) Park Sehoon, Chun Hyunsook and Jeon Seongje :Participatory Governance Analysis in Community Planning : an Institutional Approach, 大韓国土・都市計画学会学会集 国土計画，Vol.44 No.3, pp.207-220，2009年（韓国語）

7) Sun Jickkim and Chang Hoonshin : Consideration about a Directionality Setting for Practice of a Community Planning by Means of Public Participation, 地域社会発展学会論文集，Vol.35 No.2, pp.45-60，2010年（韓国語）

8) Yu changgyun, Park Sungjin and Song Taegab : Actual Proof Study on the Participated Design Stands & Improvement Direction of Village Creation supported by local government - Case study of Cheonranam-do & Haenam-gun in South Korea -, Journal of the Korean housing association, Vol.26 No.7. pp.131-139, 2010年（韓国語）

9) Lee Changho and Cheong Bori : Development Strategy for Pilot Projects of Making a Livable City Policy, 大韓建築学会論文集，Vol.26 No.8, pp.245-255，2010年（韓国語）

10) Yang jaehyuk : The Qualitative Evaluation of Promotion Progress in Neighbourhood-Making Project - Focused on the Busan Sanseong Village, 大韓建築学会連合会論文集，Vol.12

No.4, pp.41-48, 2010年(韓国語)
11) Kim Woolack and Koo Jahoon : The Influence of Making Collaborative Governance on Building Social Capital in Residential Environment Improving Projects - Focused on case of 'Seoul human town, livable Maeul-mandulgi -, 大韓国土・都市計画学会学会集 国土計画, Vol.46 No.4, pp.105-119, 2011年(韓国語)
12) Kim Myojung : A Study on the Application of the Practice Items of Sustainability for the Pilot Project 'Making the Livable City' - Focusing on the Selection Time, the Subject, and the Size of the Project -, 大韓建築学会論文集, Vol.28 No.4, pp.179-188, 2012年(韓国語)
13)Shin Joongjin and Song Sunghyun : A Study on the Conjugation of Resident Agreement in Rural Maul-mandulgi, 大韓建築学会論文集, Vol.24 No.10, pp.193-202, 2008年(韓国語)
14)Lee Jihye, Lee Myeonghun and Jun Byunghye : A Study on Affecting Factor-Construction of the Residents-participatory in Maeulmandeulgi -Focused on Gwangju City Bukgu, 大韓国土・都市計画学会学会集 国土計画, Vol.44 No.1, pp.73-85, 2009年(韓国語)
15)Cho Younkyoung, Kim Jungmin and Woo Shinkoo : A Study on of Citizen Participation method in Maul-mandulgi - Focused on the Children Participation Design, 大韓建築学会論文集, Vol.25 No.4, pp.205-216, 2009年(韓国語)
16)Shin Joongjin and Shin Hyojin : Research on the Support for 'Maul-mandulgi' Projects According to Changes in Residents' Roles - A Case Study of Doksan3-dong, Seoul, 大韓建築学会論文集, Vol.26 No.10, pp.233-244, 2010年(韓国語)
17)Ahn Hyunchan and Park Sohyun : Exploring the Characteristics of Residents' Self-Governing Committee in Local Administrations from a Community Design Perspective - Based on a Content Analysis of Official Minutes of the Seong-san 1 Dong Case, 大韓建築学会論文集, Vol.28 No.2, pp.149-158, 2012年(韓国語)
18)Kim Hyejung : Post Occupant Evaluation of Residents' Participation Community Design - Focused on the Cases of Seoul, 大韓建築学会論文集, Vol.28 No.6, pp.65-74, 2012年(韓国語)
19)Kim Jinkyung, Kim Hyun and Lee Jaejoon : A Study Monitoring of Citizen' s education Program in Community Building - Focused on Suwon-City Community-Renaissance Academy Program in Korea -, 大韓国土・都市計画学会学会集 国土計画, Vol.47 No.2, pp.57-67, 2012年(韓国語)
20)Jeon Wonsik, Kim Namdu and Hwang Heeyun : Project Themes and Promotions of Community Building with Resident Participation, 韓国都市設計学会集, Vol.9 No.4, pp.131-148, 2008年(韓国語)
21)Shin Joongjin and Song Sunghyun : A Study on the Relation-planning of Participants for Sustainable Community Building - Focused on the Pilot City 'Making the Livable City', 大韓建築学会論文集, Vol.26 No.1, pp.295-306, 2010年(韓国語)
22)Tae Younjae and Park Sohyun : Characteristics of Maeul-mandeulgi in Korea based on the Content Analysis of Related Local Ordinances, 2000-2009, 大韓建築学会論文集, Vol.26 No.7, pp.175-182, 2010年(韓国語)
23)Mok Jeonghun and Park Jonghyun : A Comparative Case Study for Maul-mandulgi Practices - Focused on Kwangju Bukgu and Tokyo Setagayagu Cases, 韓国都市設計学会集, Vol.9 No.4, pp.19-38, 2008年(韓国語)
24)Lee Yunsuk and Kim Seiyong : A Comparison on the Citizen Participatory Town Making between Hampyeong, Korea and Nagahama, Japan, 大韓建築学会論文集, Vol.24 No.12, pp.207-214, 2008年(韓国語)
25)Jeong Seok, Jo Junbum and Kim Namsun : マウル単位都市計画実現基本方法, (1) 住民参加型マウルマンドゥルギ事例研究, Seoul Development Institute, 1999年(韓国語)
26) 日本建築学会：まちづくりの方法, 丸善株式会社, 2004年3月
27) 浅井 孝彦, 森田 佳綱, 内海 麻利, 小林 重敬, 南 珍：大都市都心部におけるエリアマネジメントの実態に関する研究, 都市計画論文集, Vol.37, pp.601-606, 2002年10月
28) エリアマネジメント推進マニュアル検討会：街を育てる―エリアマネジメント推進マニュアル, 株式会社コム・ブレイン, 2008年8月
29)We Love 天神協議会:天神まちづくりガイドライン, 天神協議会, 2008年4月
30) アーバンデザインセンター研究会：アーバンデザインセンター―開かれたまちづくりの場, 理工図書, 2012年9月
31) ソウル市マウル共同体：ソウル市マウル共同体事業活用説明書, ソウル特別市, 2013年2月
32) ソウル研究院：ソウル特別市基本計画資料集, ソウル特別市, 2012年8月
33) 渡辺俊一, 杉崎 和久, 伊藤 若菜, 小泉 秀樹「用語「まちづくり」に関する文献研究 (1945～1959)」都市計画論文集 Vol. 32, pp.43-48, 1997年10月

(受理：平成25年11月14日)